

海外で見つける自分自身の価値

市川 開史
Haruhito ICHIKAWA
機械システム工学科 3年

1. はじめに

今回私は学校生活を過ごすだけではグローバルな視野を身に着けることができなと感じ今回のプログラムに応募しました。今の国際社会ではグローバルな舞台上で活躍するための人材が求められています。しかし今の日本の学生は海外に就職する人が世界に比べて少ないと個人的に感じます。しかし龍谷大学の海外インターンシップのプログラムは私たちに世界で活躍できるようになるための一つの機会をもうけていただきました。狭い視野では世界で活躍できるわけがありません。今どのような人材が求められているのか私たちには知る必要があります。外国の文化、経済、英語によるコミュニケーション、三週間実際に体験することによってより高い人間力を身につけることが今回の私の目的です。

2. インターンシップ先の企業について

今回のプログラムでお世話になった sugita foods 様はサンフランシスコとサンノゼで日本食レストランを3店舗展開しています。オフィスでは日本人のみ、お店には現地の人と日本人の料理人が働いていました。寿司バーといわれる場所と厨房とホールの三つ場所があります。日本食がユネスコ無形文化遺産に登録されてから世界中で日本食が人気です。さらにサンフランシスコでは最近の流行のため、海外の観光客が日本食を食べる事がステータスです。sugita foods が経営する SANRAKU レストランは観光客や地元の人から愛されるお店です。ユニクロの社長や野球選手の黒田選手、俳優の方や、日本領事館など有名なお客様がお店に足を運びます。

3. 実習内容

今回の実習ではお店の中で実際にお客様にサービスをするのではなく、マーケティングや顧客管理をしてどのようなお客様がレストランを利用されるのか、調査することが今回の私の役割でした。お客様に配布しているメンバーカードのデータをパソコンに入力します。そしてポイントがたまったお客様にはご自宅に郵送で割引カードを送るかお客様が使われているメールアドレスに割引ポイントをお知らせします。もう一つの仕事は顧客調査です。今アメリカでは日本食が大変人気です。サンフランシスコやカルフォルニア州だけでも数えきれないほど日本食があるなか、今回お世話になった SANRKU レストランではインターネットや雑誌でも高い評価を受けています。たくさんの観光客がサンフランシスコを訪れるためホテルのコンシェルジュがどのような日本食レストランを紹介しているのか調査しました。そして最後はジョブシャドウイングも行いました。よく行われている職業教育の一つです。人がしている仕事をみているのではなく仕事をしている人を見ることによって働くことはどのようなことなのか経験しました。服部社長の一日を私も体験することで、お店をつくるむずかしさや大変さを感じることができました。そしてたくさんの業務を並行しながら部下が問題なく働いているのかチェックをしたり、労働法の事を弁護士と話し合ったり、頭がパンクしてしまいそうなくらいたくさんの仕事をしている社長を見ると、いかに「報・連・相」が大切なのかわかりました。

図1のように防犯カメラやお店のデザインを考え現地の外国の方とスマホでデータを見ながら交渉することとも社長の仕事です。お店を作り上げるまでにはたくさんの人と話し合い交渉することが必要です。私はアメリカでの交渉や話し合いなどをみて、日本と全く違う表情や話の聞き方、コミュニケーションで交渉が行われていること知りました。



図1 タブレットから見える防犯カメラやライトの光を調節する様子

4. ホームステイについて

今回お世話になったホストファミリーは中国人の方でした。家にはたくさんの方の人達が住んでおられました。私はそこでいろいろな人とお話をして友達がたくさん増えました。私はあまり英語が得意ではありませんが海外の方はとてもおおらかで優しく、すぐに打ち解けあうことができました。これも一つ大きなアメリカの文化の一つだと思いました。そして一番印象に残ったことはホストマザーから英語だけではなく中国語も勉強しなければならないと言われました。お世話になった期間中国語も教えてくださりとても勉強になりました。

5. プログラム全体で感じた事

今回のプログラムではさまざまな体験をする事が出来ました。シリコンバレーで活躍されている日本人の方からお話を聞くことができたり、市場でボランティアをして現地の方と交流したり、また Google や NASA, Intel など有名な企業を見学することができました。絶対にほかの人では経験できないことをさせていただきました。アメリカの大きな企業では日本と働き方が大きく違うことが分かりまし

た。Google でお昼ご飯を取った時に社員の人ができるだけ色々な人にコミュニケーションをとり、社中にはビリヤードなどがあり笑顔が絶えない会社でした。

パソコンに向き合う仕事だからこそ人として楽しめる空間を作る社風が私はとても好きでした。将来絶対にこのような会社に入り大きなプロジェクトをしたいと思うようになりました。

6. おわりに

今回のプログラムを始める前と後で大きく考え方が変わりました。若い時に得た経験は自分の大きな力になることです。今回お世話になった服部社長は20歳の時にアメリカで働いていたそうです。「一人で若い時にアメリカで働いたからこそ、今の自分がある」とおっしゃっていました。そこで一つの考え方が生まれました。学歴、年齢ではなく自分自身の能力価値が求められると感じました。さらにその能力とは若い時にこそ磨かれるのではないかと感じました。何か目的をもち大学生活で勉強をしなければならないのです。アメリカの学生と話す機会があり、話しを聞いていると考えられないぐらいたくさんの勉強をしており目的と明確な将来のビジョンを持っていました。自分の価値がなければ生きてはいけない、それは当たり前の事なのかもしれませんが自分に一つ大きな危機感を抱きました。海外にでて生活することではじめて物の見方が変わります。私は本当にこのプログラムに参加できてよかったと思います。なぜならば自分が世界のどの位置にいるのか、また何をこれからいなければならないのか気づかされた気がします。残りの大学生活、今回経験したことを大切に世界を目標に海外の学生と戦える人間になりたいと思いました。